

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

心

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 在宅介護経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

特別養護老人ホーム設立30周年という法人がこのホームを設立し、2年目が経過した。山々を望む広大な敷地の中に特養ホームとこのグループホームがある。建物もリビングルームや廊下が広く、大きな窓がたくさんあり、自然の風景が見えて落ち着きを感じる。

自分でこのホームを選んだという男性は、歌集を持って時々鼻歌を歌う。周辺の散歩にもよく出かけるそうだ。「仲間に男性がいないのが残念だが、結構好きなことが言える。」とこの生活に満足しているようだ。ソファでは仲良しの女性二人が、一緒にいるのを楽しんでいる。キッチン前のテーブルで野菜を切ったり、付け分けたりしている利用者もいる。食後の団欒風景はとても楽しい。利用者同士の言いたい放題の会話がぼんぼんと飛び交う。たった一人の男性も負けてはいない。最後には「失礼なことを申し上げまして、お詫び申し上げます」「こちらこそ」と治まる。利用者の自立度はまだ高く、利用者同士のコミュニケーションを楽しむことができています。

職員は見守りを中心にして、利用者に自由な生活をしてもらっている。その中で、生活にリズムをつけ機能維持をしていくために、毎日全員で体操や掃除をしたり、調理手伝いや散歩などできることは積極的にしてもらっている。そして、必要な時には利用者一人ひとりに対応したケアを行っている。歯磨きやトイレへの誘導、個室にいる人の様子確認などその人の特徴を掴んでいて、的確に行っている。

隣にある特養ホームから支援が受けられることもこのホームの利点である。利用者の楽しみや活動の場として、特養での行事に参加することも多い。職員は法人内で十分な研修を行い、介護経験を十分積むことができる。緊急時や災害時の支援も受けられる。また、利用者の重度化が進んだときには、特養への移転を希望できるのも安心である。

今後利用者の自立度が低下したときでも、楽しく過ごしてもらうための方策を考えておいて欲しい。その時は、ゆっくり傍に座って一人ひとりへの話しかけや聞き取りも大切になってくると思う。

特に改善の余地があると思われる点

法人全体での季刊情報誌や毎月の利用者個人の様子を家族に送って知らせているが、ホーム独自の「たより」も作り、家族や地域との連携を図っていければ良いと思う。ホームの変遷の記録にもなると思う。

運営推進会議を活性化させ、地域住民にホームの良さを知ってもらい、開かれたホームとなつて欲しい。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：法人全体で、理念の実行に自信を持って高齢者介護に取り組んでいる</p> <p>2. 全体的に見て…：特養ホームより小さな単位のグループホームで地域との交流を目指し、利用者に社会の一人の人間として生活してもらう支援をしようとしている。その人の体だけでなく「心」に視点を置いて、豊かな自然環境の中で利用者同士や地域の人たちとの自由な交流を進め、充実した生活をしてもらえることを目標にしている。また、利用者の重度化が進んでも、利用者や家族を法人全体で支えていこうとしている。設備や職員の能力を活かし、最後まで十分な支援を行う体制は整えているとのこと。家族との話し合いによっては、特養ホームへの入所も考慮でき、法人全体で終末まで見てもらえるのは心強い。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：安全性など様々な面に配慮されて作られた新しいホームであり、問題ない。</p> <p>2. 全体的に見て…：どの部屋も広くて明るく、リビングルームからは山々が眺められ、ゆったりと落ち着ける。リビングや廊下の窓は掃き出し窓にしてあり、出入りは自由。利用者の居場所は居室とリビングの食卓イスのほかにソファや畳の間など自由に選んでのんびりと過ごすことができる。利用者の自由尊重の表れと思う。個室内にトイレと洗面があり、プライバシーに配慮されている。廊下の広さ、ドアの大きさは車椅子やベッドの移動にも十分対応できるし、浴室も利用者の重度化に対応できる。各所に安全、安心への配慮がある。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：ホームの現状を適正に評価している。改善に向けて努力しているが、解決が難しいことが残っている。利用者に直接関わることは、視点を変えて、早急に手を打ってほしい。</p> <p>2. 全体的に見て…：自立度の高い利用者が多いので、職員は利用者の自由な活動を見守ることを中心とし、利用者同士は会話することを楽しみにすることができている。その中で、生活のリズム付けや機能維持のために体操や家事など、できることを毎日の日課としている。職員は利用者一人ひとりの性格や能力をよく把握しており、その時々に必要な支援を的確にこなしている。利用者に対しての十分なアセスメントと記録や健康管理などをきちんと整えている結果、職員が信頼されていると思う。利用者の中に入って話をしたり聞いたりする時間を増やしていきたい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：法人内で研修や会議を行いケアの質向上に努めているが、地域交流について運営推進会議で取組みを始めているが、立地条件もあり、今後の会議の生かし方に懸かっている。</p> <p>2. 全体的に見て…：法人全体として取り組んでいることが多い。研修や会議でよりケアの質の向上を図り、防災や地域交流なども全体で行っている。運営推進会議を行うことで、ホーム独自に少しずつ地域との交流が始まっているが、地域の人にホームの良さを知ってもらうことから取り組んでいきたい。</p>		